

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



大田県聚楽郷にある采涼山でスタディツアー参加者が記念撮影。

Contents

- 2014 南天門自然植物園 P 2
- IVUSA 西伊豆合宿報告 P 3
- 黄土高原スタディツアー写真報告 P 4 ~ 5
- 宇久須収穫合宿参加者募集 P 6
- 自然と親しむ会参加者募集 P 6

2014.9
159

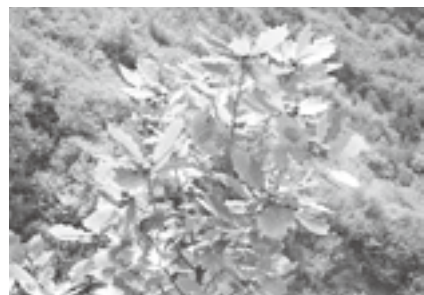
認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

2014 南天門自然植物園

スタートから 15 年 日向斜面の植生が順調に回復

昨年秋に発行した報告書『中国黄土高原における草の根環境協力 22 年の歩み』の表紙に南天門自然植物園における最初の植林の様子（1999 年 4 月、橋本紘二撮影）、裏表紙に 2013 年夏の樹木が生い茂った写真を載せたところ、多数の方から「同じ場所とは思えない！」という驚きの感想が寄せられました。

南天門自然植物園は今年もまた緑を濃くしていました。日陰斜面の主人公であるナラ（遼東櫟、蒙櫟など）はたくさんの実（ドングリ）をつけています。責任者の李向東さんによると、生り年は一年おきのようで、今回は 2012 年でした。



実（ドングリ）をつけたナラ

日陰斜面はもう何年も前から緑が濃くなっていますが、最近の変化が著しいのは南向きの日向斜面です。乾燥が厳しいために、木も草もほとんど生えませんが、すると雨によって土が流され、岩がむき出しになって、植物の生育は

さらに難しくなります。悪循環です。

ところが最近、この日向斜面の緑がずいぶん濃くなってきたのです。中心になっているのはニンジンボク（荊条）、灌木のトネリコ（小葉白蠟樹）などですが、花のきれいな山桜桃、ツツジなども混じり、植物の種類は日陰斜面よりずっと豊富です。放牧や柴刈りが少なくなると、霊丘の山肌は全体として緑に染まってきましたが、日向斜面までそうなっているのはここしかありません。

山を下ってくる途中、左手の日陰斜面はナラなどが繁茂し、右手の日向斜面は岩肌が目立つところがありました。私はいつもここで「日陰斜面は森林が成立し、日向斜面は難しい」という説明をしていたのですが、それに相応しい場所ではなくつつあります。

前中久行代表と私とで、ツアーがここにくる前日、日陰斜面の調査区を見て回りました。20m × 20m の調査区のなかに、6 年前に胸高直径が 4.5cm 以上だった木は、ナラやシナノキを中心に 80 本ありました。その後、地元のスタッフが毎年、落葉期に胸高直径と樹高を測定し、記録しています。

前中代表が不思議に思っ



植物園内にある調査区

たのは、その 80 本がこれまで 1 本も欠けていないことで、日本ではふつう考えられないとか。落葉期の測定だから、枯れているのを見過ごしているのではないか。というわけで、葉のあるこの時期に、1 本ずつ確かめたのです。まちがいをなく生きていました。サイズの小さいものには消えていくものもありますが、80 本は 1 本も枯れていませんでした。（高見）



2014 夏季カンパの報告

みなさまのご協力ありがとうございました

今年の夏は各地で異常気象による大きな災害が起きました。被害にあわれた方にはお見舞い申し上げます。会報 7 月号で夏季カンパのお願いをしたところ、9 月 1 日までに 76 件、691,358 円のご寄付をいただきました。ありがとうございます。昨年同期間には金額のまとまったご寄付を数件いただいたので、82 件、3,491,283 円でした。

今年 4 月からの累計だと、126 件、8,815,798 円になります。夏季カンパ開始以前に、大きな金額のご寄付をいただきました。昨年同時期は 140 件、4,854,283 円でした。

日中関係はなかなか改善せず GEN を取り巻く状況は厳しいままですが、みなさまからの暖かいご協力のおかげで活動を続けることができています。あらためてお礼申し上げますとともに、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



報告

学生の見事なチームワークに感動

美谷島 克実（GEN 会員）

8 月 7 日～ 10 日の日程で IVUSA 西伊豆合宿がおこなわれ、たくさんの学生が参加しました。無煙炭化器を使つての炭焼き、フィールドトリップのほか、地元との交流会など充実した 4 日間を過ごしました。

8 月 7 日から 4 日間、IVUSA の西伊豆合宿が行われ私も参加しました。77 名の学生さんがほぼ日本中から集まり、宇久須を中心に様々な活動を展開しました。紙面の関係でとてもその全てを紹介することはできませんので、詳細についてはブログの「西伊豆（宇久須）だより」をご覧ください。

私はこの合宿では、2 日目に「伊豆半島が日本を一つにした」という地質の講演と、西伊豆のジオサイトツアーのガイドを担当しました。当日は台風の影響で大波が海岸に打ち寄せ、海沿いのツアーは大変でしたが、彼らはまるで子供のようにしゃいでむしろ楽しんでいました。

3 日目は、宇久須の休耕田で薪割りと無煙炭化器を用いての炭焼き。どちらも彼らには初めての体験で、特にへっ

りり腰の薪割り姿には笑いが絶えませんでした。しかし、ここでも活躍したのは女子学生の方。いやはや、肉食系女子のパワーは恐るべしです。

4 日目は地元との交流会。学生たちから即席の「町おこし案」が次々と飛び出しましたが、彼らが最後に言った言葉はどれも同じでした。「西伊豆の人びとのおもてなしの心に触れて感激しました」。合宿終了後はバス 2 台に分乗して新宿まで戻り、全員で打ち上げ会。最後は涙・涙のお別れで、それぞれ東京、関西、地方へと帰って行きました。

この 3 日間、IVUSA の学生さんと接した私の印象は、①実に礼儀正しい、②リーダーを中心にしたチームワークが素晴らしい、③抜群の行動力です。この 77 名の学生さんの大半は今回の合宿が初対面なのですが、まるでずっ



と以前から一緒に活動していたかの如くリーダーを中心に見事なチームワークを発揮し、しかもお互い実には仲が良いのにも驚きました。IVUSA という団体が良い伝統をしっかりと継承している事がよく分かりました。せいぜい 4 年間しか在籍しない学生中心の組織で、よくここまでのシステムを築き上げたものだと、それが何よりの驚きでした。



初めての薪割りに挑戦

いますぐできる GEN への協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）

一般会員 12,000 円
家族会員（同居の家族 2 人目から） 6,000 円

学生会員 3,000 円
ジュニア会員（中学生以下） 1,000 円

団体会員 12,000 円
賛助会員 100,000 円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料 2,000 円。

■緑化基金、運営カンパもとむ

金額は自由です。GEN への寄付は、寄付控除の対象となります。また、緑化基金、運営カンパの別を問わない用途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

* 緑化基金の 20% は事務管理費になります。

■絵はがき『黄土高原の花』

8 枚組・300 円（送料別途。5 セット以上送料無料）

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。■未使用切手・古切手を集めています 普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN 事務所から連絡します。

* * * * * 【GEN への寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは所轄庁（大

阪市）に認定された認定 NPO 法人です。（期限は 2019 年 4 月 8 日まで）。

GEN への寄付は、所得控除あるいは税額控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO 法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合寄付金となるのは、緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち 1 口を超える部分、賛助会費から 12,000 円をひいた金額です。

また、大阪市民のかたは市民税控除を受けることができます。くわしくは GEN までお問い合わせください。

黄土高原スタディツアー写真報告 2014 年 8 月の大同

2014 年は松永光平さん（GEN 世話人）と大塚健司さん（アジア経済研究所）が大同を訪問（8 月 4 日～7 日）したほか、GEN 黄土高原スタディツアー（8 月 23 日～8 月 29 日、25 名）と学習院大学・立教大学ツアー（同日程、11 名）、（社）大阪市 RR 厚生会（8 月 29 日～9 月 2 日、4 名）が大同を訪問し、緑化活動に汗を流しました。今回は写真でご紹介します。

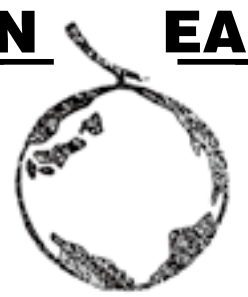
8 月 23 日、北京から列車に乗り、霊丘県に到着。翌日、南天門自然植物園へ向かう途中で渋滞に遭いましたが、なんとか到着し、マツとコノテガシワを植樹しました（写真左）。昼食後、園内を見学してまわりました（写真右）。



8 月 25 日、渾源县呉城村を訪問しました。アンズ畑を見学したあと、農家で昼食をごちそうになり、おなかいっぱいいただきました（写真左）。お昼をごちそうになったあと、村の浸食谷を見学しました（写真右）。



渾源县呉城村のアンズの木を背に記念撮影（写真上）。今年は 5 月に襲来した寒波のため、残念ながらアンズの収穫はなりませんでした、来年の豊作を祈ります。「それはなに？どうやって使うの？」言葉は通じなくても身振り手振りで交流（写真右上）。呉城村の杏仁をお土産に購入。ひと袋 20 元（写真右下）。



8 月 26 日は大同市北部の天鎮県張西河郷を訪れました。午前、植林現場に行く途中は植物観察を楽しみました。雄大な黄土高原の景色を眺めながら、村の人たちと一っしょにマツの植樹をおこないました（写真左）。午後は李二口村にある万里の長城を見学（写真右）。



8 月 27 日、午前は大同県にある緑の地球環境センターを訪問し、前中代表の案内で園内の苗圃、生態植林見本園、有用植物見本園などを見学（写真左）したあと、マツ苗の移植作業をおこないました（写真上）。



8 月 27 日の午後はセンターのマツの生長量測定のため、幹、枝、葉にわかる作業をおこない（写真左）、その後、カササギの森を見学しました。マツは人の身長を抜いて順調に育っていますが、ナラもここ数年で急に伸び始めており、今後が楽しみです（写真中央）。今年の大同は降水量が少なかったのですが、前中代表は「樹木は不思議とよく育っているなあ」と言っていました。南天門自然植物園のマツムシソウ（写真右）

参加者
募集

宇久須収穫合宿

西伊豆での活動が、地域のなかで広くそして深くなりつつあります。今回の合宿では収穫物の「おすそわけ」の輪を広げていきたいと思ひます。

NHK ドラマ「芙蓉の人」で富士山火口場面のロケにも使われた、珪石採掘跡地の参観を打診中。緑化を困難なものにしている強酸性の青粘土に、実験的に無煙炭化器の炭を混ぜて効果をみることも試みます。

さらに黄金崎で松ぼっくりを採取、松林の再生に結びつけて行く予定です。宇久須の伝統行事にも触れます。ぜひご参加ください。

○日程：（天候などにより変更の可能性あり）

11月1日（土）17時 西伊豆町宇久須 GEN 関東ランチ宿舎に集合 8:30 海鮮料理店「カネジョウ」にて夕食を兼ねて結成式

11月2日（日）午前 GEN 関東ランチ圃場にて収穫作業（サツマイモ・里芋・南瓜など）。

午後 黄金崎にてマツぼっくりの収集、珪石採掘露天掘り跡の視察（交渉中）。18時 出崎神社にてお歌の奉納の参観。「なおりい」への参加（未定）。

11月3日（月）早朝 牛崎神社にて人形三番叟の参観。午前 出崎神社にて猿っ子踊りの参観。文化展の参観など。昼頃に現地解散。



○持ち物：シーツ・枕カバー、軍手、農作業に適した服装、懐中電灯、防寒具

○場所：静岡県賀茂郡西伊豆町宇久須 交通費は自己負担。以下、交通手段の例です。

①高速バス利用（新宿～修善寺）＋路線バス（修善寺～宇久須）高速バス：往路＝新宿 9:15 発、復路＝修善寺 15:20 発 事前予約が必要：www.j-bus.co.jp/ 電話予約 0570-01-1255

②新幹線・踊り子号など東海道線利用（東京など～三島）＋伊豆箱根鉄道（三島～修善寺）＋路線バス（修善寺～宇久須）

③清水からフェリーで土肥港＋路線バスという方法もあります。晴れば富士山が見事です。

○参加費：8,000 円、高校生以下は 6,000 円、幼児は無料）酒代は別途。

○定員：13 名（先着順）

○申込み：10 月 25 日（土）までにメール（matizukuri.college@gmail.com）ファックス（上田宛 042-388-6642）のいずれかで人数（性別・年齢）、代表者の氏名と連絡先、合宿に持参予定の携帯電話番号をお知らせください。

○問合せ：上田信 ueda@rikkyo.ac.jp

GEN 自然と親しむ会

秋のキノコを見に行こう

昨年生駒山でおこなったキノコ見学会、好評につき今年は夙川公園でおこないます。小川の流れる公園内を散策しながら、秋のキノコを観察しましょう。

サクラの有名な夙川公園ですが、西宮市が取り組んでいる西宮舞桜やクロマツの保護活動についてもお話しいたできます。どうぞご参加ください。

○日時：10 月 25 日（土）10 時～15 時ごろまで

○場所：夙川公園（兵庫県西宮市）

○集合：10 時に阪急甲陽線「苦楽園口」

駅西口改札

○案内：栗栖敏浩さん（（株）環境総合テクノス環境部、樹木医）

○持ち物：動きやすい服装・靴、帽子、弁当、飲み物、雨具、あればキノコ図鑑

○参加費：700 円

○定員：20 名

○申込み：10 月 22 日（水）までに氏名・年齢・連絡先を GEN 事務所までお知らせください。

※小雨決行

参加者
募集

日本の留学生が見た中国 中国留学報告会

日本と中国の冷え込んだ状態が長期化しており、「あえてこの時期に中国へいかななくてもいいのでは」という声も聞かれます。

そんななか、中国の北京林業大学へ1年間留学した GEN 会員の大学生がいま

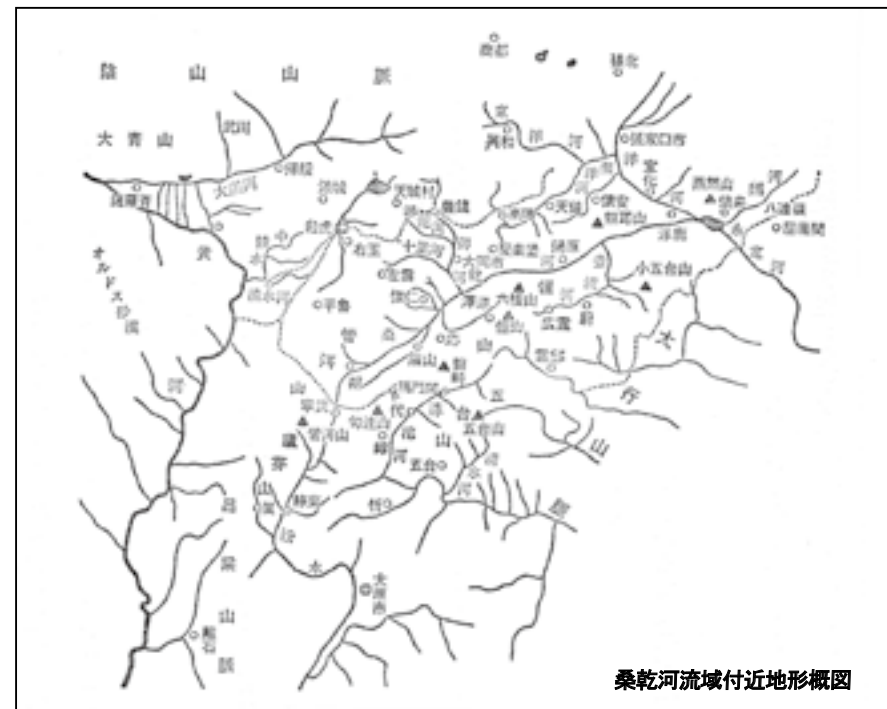
す。日本の若者に中国はどのように映ったのでしょうか。

知っているようで知らない中国人の日常生活、農村で過ごした春節、大同のツアーへの参加、日本人会緑化委員会での活動などの体験や、帰国して

黄土高原史話〈69〉

桑乾河に水がない

谷口 義介（GEN 会員）



今夏のスタディ・ツアー、20 名以上の参加をえて、にぎやかに出発の由。

霊丘県の南天門自然植物園への行き帰りに、大同の郊外で桑乾（干）河を渡ったはずだから、そのあたりの話を連続して 2、3 回。

✓あらためて感じたことなど、いろいろ語っていただきます。よく知っているはずのお隣の国中国について新たな発見があるかもしれません。ぜひご参加ください。

○日時：10 月 21 日（火）18 時 30 分～20 時 30 分

○場所：大阪市立総合生涯学習センター 第 7 研修室（大阪駅前第 2 ビル 5 階 JR「大阪」駅／「北新地」駅、各線「梅田」駅下車）

○講師：鶴田惇さん（京都大学大学院農学研究科）

○参加費：700 円（学生 300 円）

○定員：20 名

○問合せ・申込み：10 月 17 日（金）までに GEN 事務局まで

桑乾河は全長 500 キロ。源流は山西省北西部の恢河および原子河で、朔州市で合流して桑乾河と呼ばれるようになり、東北流して大同・泥家湾・涿鹿の 3 つの盆地をつらぬき、河北省に入って張家口市の南の朱官屯で永定河と接続する。ちなみに、永定河は別名を盧（蘆）溝河ともいい、北京の西側を流れ、天津で海河に接し、河口に至る。ただし、桑乾河・永定河を含めて、全体を海河とも称している。

それはさておき、桑乾河上流の朔州付近と前記 3 つの盆地には、流れ込む支流が多く、沼池・湧泉が集中しているため、もともとこの河の水は豊かだった、と北魏時代の『水経注』より推定できる。

先年まで大同市・善化寺内の庭園に安置されていた鉄牛は明代のもので、桑乾河に北から流入してくる御河（如渾水）の西岸、つまり大同市街の東側に置かれていた。いうまでもなく鉄牛は、黄河の蒲津関鉄牛（唐代）の例でも知られるように、河の氾濫を鎮める目的で置かれるもの。だから御河にはかなりの水量があり、時として洪

水が大同市内を襲った、と考えてよい。

しかし、桑乾河と大同のあいだの懷仁県東方にいくつかあった泉池は、清代までには涸れてしまったといわれ（『大清一統志』巻 109）、また桑乾河は「氾濫の災なく、また灌輸の利に乏し」いで、明末、ある役人が大同南郊の古定橋以下の浚渫を上奏した（『明史』河渠志）。おそらく桑乾河の水は、次第に減ってきたのだろう。

ところで、桑乾河といえば、丁玲（1904～86）に『太陽は桑乾河を照らす』（1949 年出版、52 年スターリン賞受賞）という小説あり。

1948 年に記された「著者のまえがき」によると、張家口の南西、桑乾河と洋河が合流して前述の永定河になる涿鹿県一帯が舞台となっているから、桑乾河も最下流にあたる。

では、そのころ桑乾河の水量はどの程度だったのだろうか。

向うの畦から白いシャツを着た男がやって来る。頭を丸刈りにし、肩に藍木綿の上衣をひっかけ、ズボンをまくり上げて、たったいま桑乾河の水を渡って来たばかりだった。

（四一）

また、五一に、馬車で河に乗り入れる場面があるから、このころ桑乾河の下流あたりは浅かった、と判断してよいだろう。

そして、こうした桑乾河で最後に流れらしいものが見られたのは、1997 年 7 月のこと。大同市の南の固（古）定橋から眺めたところ、近くの農民がヒツジの群れを濁水に追い込んで、体を洗わせていたという。もともと年間降雨量が 400～500 ミリと少ないうえ、近年では野菜畑を灌漑するための井戸の汲み上げが、地下水帯でつながっている桑乾河を水枯れさせる結果をまねいている。98 年に上流の朔州市にダムができて、そこで水をせき止めたことも、濁水に拍車をかけた一因らしい。

99 年以降、3 月か 8 月に幾度となく大同を訪れたが、白々とした河床に黒ずんだ水たまりが残る程度で、一筋の流れも見ることができなかった。

今夏の桑乾河はどうでしたか？

情報ひろば
いっしょなかたち

NHK カルチャー京橋教室
野の道を歩く

野の道を歩いて自然を楽しんでみませんか。GEN 代表の前中久行さんが案内します。

- 日程：10 月 11 日だんじり太鼓を聞きながら泉州の山手を歩く（岸和田市）／11 月 15 日吉野でさくらの紅葉を楽しむ（奈良県吉野）／12 月 20 日室池冬の雑木林を散策（四条畷市）／2015 年 1 月 17 日京都御苑に公家邸の庭園跡を探る（京都市）／2 月 21 日高野街道をたどる（大阪狭山市）／3 月 14 日新規開園の府営丘陵緑地公園で春の訪れを感じる（泉佐野市）
- 時間：10 時～15 時
- 受講料：全 6 回 16,200 円（体験（1 回限り：2,500 円＋税）ができます。詳しくはお問い合わせください）
- 持ち物：弁当、飲み物、雨具、日よけ、動きやすい服装・靴
- 問合せ・申込み：NHK カルチャー京橋教室（〒534-0024 大阪市都島

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月 15 日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

区東野田町 2-9-7 K2 ビル 3 F tel. 06-6358-3377 fax. 06-6358-3322
URL <http://www.nhk-cul.co.jp/school/kyobashi/>

e-mail : info@gfjapan2014.jp URL : <http://www.gfjapan2014.jp>

日本最大級の国際協力イベント
グローバルフェスタ
JAPAN2014

今年で 24 回を迎える国際協力のイベントです。国際協力の世界をのぞいてみませんか。

- 日時：10 月 4 日（土）、5 日（日）10 時～17 時 小雨決行
- 場所：日比谷公園（東京メトロ「霞が関」、「日比谷」駅下車徒歩すぐ、JR「有楽町」駅下車徒歩 8 分）
- 入場無料
- 共催：外務省、独立行政法人国際協力機構、NPO 法人国際協力 NGO センター
- 主催・問合せ：グローバルフェスタ JAPAN2014 実行委員会事務局 (tel. 03-5355-0700 fax. 03-5355-0888

平成 26 年度 森林総合研究所関西支所
公開講演会
森のなか、シカが増えすぎて…

各地で増加するニホンジカによる森林被害、その対策や影響は？ 森に暮らす鳥獣にまつわる話題を紹介します。

- 日程：10 月 17 日（金）13 時 45 分～16 時 30 分
- 参加費：無料（事前申込者優先）
- 会場：キャンパスプラザ京都 4F 第 2 講義室
- 申込み：10 月 15 日までに電話、ファクス、e-mail のいずれかで所属（会社または機関名）、氏名、連絡先（電話番号・e-mail）をお知らせください。
- 主催・申込み：独立行政法人森林総合研究所関西支所（〒612-0855 京都市伏見区桃山町永井久太郎 68 tel. 075-366-9901 fax. 075-611-1207 e-mail : fsm-ren@ffpri.affrc.go.jp）